

日本留学海外拠点連携推進事業 中間評価所見

採択機関（担当地域）名：東京大学（南西アジア）

○ 実施委員会による評価を踏まえた所見

1. 全体の進捗状況

東京大学の強みであるインドを中心にコロナ禍前、コロナ禍中も積極的に活動を行っており、インドの他、スリランカに拠点を設置し、ネパール、パキスタンでも広報活動を展開している。コロナ禍で移動に制限があるなかで、地域内の各国で関係機関の協力のもとに、オンラインの説明会などを活用した試みが一定の効果をあげている。パンデミックが下火になり渡航が可能となれば機会を伺っていた留学生が増える可能性が高い。

2. 成果指標（※）の進捗状況

計画は、コロナ禍で若干の遅れはあるが、オンライン、SNS等を駆使しての情報収集・発信活動が実施できている。スリランカに新たに拠点を立ち上げ、ネパールでの高校・大学訪問の実施、パキスタンでの同窓会組織の立ち上げ等、活動を展開している。他方、収集された情報の分析、分類結果や有益情報から次の有効施策へのアクションにつながる具体的な取組みが待たれる。

インド及びスリランカでの日本留学説明会等では非常に多数の学生が参加している一方で、優秀な学生の獲得につなげる取組みとして、マス向け取り組み後の施策展開に工夫が望まれる。

3. 実施体制の構築・活動状況

東京大学の強みであるインドとの連携は多くの留学生獲得に効果を上げている。この成果を周辺国や他の日本の大学とも連携して活動できると好ましいと思われる。

計画どおり人員が配置され活動が行われており、スリランカにサテライトオフィスを予定通り設置し、バングラデシュへのサテライトオフィス設置も進めている。一方で、本事業はあくまでオールジャパンの活動の活性化であるため国内他大学及び他の地域との連携が課題となる。

4. 今後の実施方針についての検討状況

コロナ禍の影響を踏まえたオンライン事業の推進やハイブリッドによる事業実施可能性、さらにサテライト拠点の追加設置により対応策がしかるべく検討されている。東京大学のみならず、日本全体の他大学のための優秀な留学生獲得がのぞまれる。

今後の継続的な活動にあたり重要な活動基盤造りにはしっかり取り組まれているものの、委託期間終了後の事業運営方針については引き続き検討を要する。

※ 実施計画書における成果指標①「留学に関する情報収集・発信（既存機能の更なる強化）」、成果指標②「優秀な留学生獲得に向けたリクルーティング活動促進」、成果指標③「帰国留学生とのネットワーク構築及び広報・リクルーティング活動における協力深化」